

# 金・プラチナ・パラジウム 価格の推移



※金価格は1982年2月までは金小売市場価格(高値)、1982年3月以降は東京商品取引所、更に2020年7月以降は大阪取引所の期近値(高値) ※プラチナ価格は1983年12月までは豊トラスティ証券調べ、1984年1月以降は東京商品取引所、更に2020年7月以降は大阪取引所の期近値(高値) ※パラジウム価格は1992年7月までは豊トラスティ証券調べ、1992年8月以降は東京商品取引所、更に2020年7月以降は大阪取引所の期近値(高値) 出所:時事通信社のデータを基に豊トラスティ証券作成

# 金

## 上昇が続き 史上最高値を更新

金は紙幣とは違い、金そのものに価値がある実物資産です。金は紀元前から通貨として流通し、1970年代までは金本位制がとられ、世界各国の通貨も金を中心として価値が決まっていた。過去45年の金価格の推移を見ると、不況時や紛争、テロなどにより地政学的リスクが高まったとき、金価格は値上がりする傾向にあります。近年では、コロナ禍や紛争の勃発による経済不安の高まりを背景に、投資家からの人気急上昇。「有望な資金の逃避先」として更に脚光を浴びつつあります。1980年1月に記録した円建て金価格の最高値6,495円を更新し、その後も上昇トレンドを継続しています。

### POINT!

経済不安が高まると、値上がりする傾向

地政学的リスクの高まりで金投資は更に脚光を浴びる

円建て金価格の最高値を更新中!

# プラチナ

## “脱炭素”ブームが 上昇を後押し

プラチナは、和名では「白金(はっきん)」と呼ばれます。有史以来の金の採掘量が約18万トンであるのに対し、プラチナは約7,000トン。その希少性から、本来プラチナ価格は金価格よりも高いはずですが、ここ数年は金価格を下回る逆転現象が継続しています。ディーゼル車の販売台数急減に伴い、その排ガス触媒となるプラチナの需要が低迷したことが背景にあります。しかし、近年開発が進められる水素燃料電池車は電極に使うプラチナの量が多く、一般的な乗用車の10倍と言われています。“脱炭素”ブームによる新需要の拡大が見込まれており、産業用貴金属としてのプラチナに対する期待が高まっています。

### POINT!

採掘量が少なく、金よりも希少性が高いレアメタル

近年は金価格を下回る逆転現象が継続している

“脱炭素”ブームによる新需要拡大に期待が高まる

# パラジウム

## 供給不足により さらなる上昇へ

パラジウムはプラチナと同様、貴金属の中でも希少性が高いレアメタルです。銀歯の素材として用いられるなど、実は身近なところに存在しています。用途の大半を占めるのは、自動車の排ガス触媒。自動車の排気ガスにはさまざまな有害物質が含まれており、それを除去する触媒として利用されています。一時は金価格を大きく上回るほどパラジウム価格が急騰した背景には、ディーゼル車に対する規制強化があります。環境規制は世界的なメガトレンドであり、コロナ禍の収束により自動車の排ガス触媒向け需要はさらに高まるでしょう。パラジウムの供給不足が継続する可能性は高いと考えられます。

### POINT!

プラチナと同様、希少性が高いレアメタル

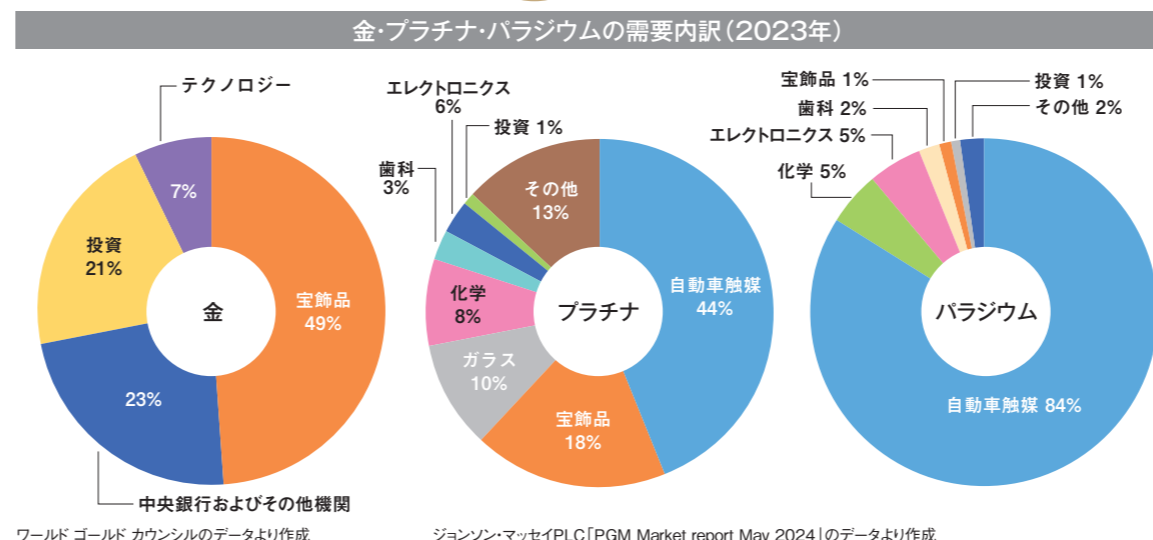
自動車の排ガス触媒に長け、一時は金価格を上回る

世界的な環境規制を背景に、供給不足が継続か

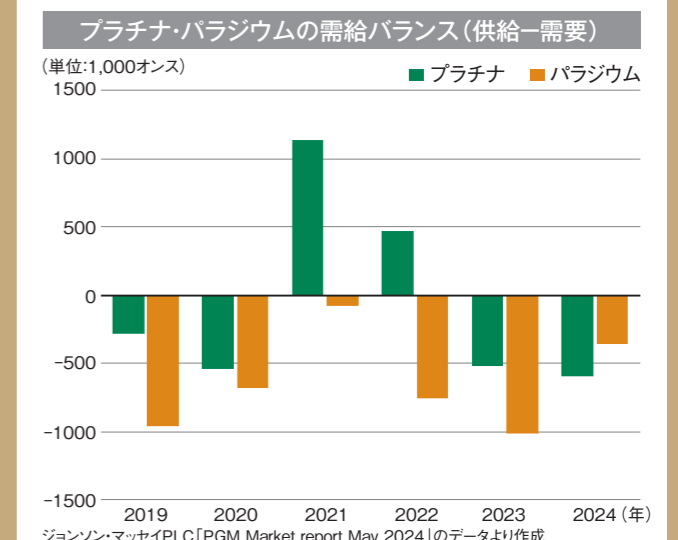
## COMMODITY MEMO

元素周期表																		
族																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	H																	He
2	Li	Be											B	C	N	O	F	Ne
3	Na	Mg											Al	Si	P	S	Cl	Ar
4	K	Ca	Sc	Ti	V	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	Ga	Ge	As	Se	Br	Kr
5	Rb	Sr	Y	Zr	Nb	Mo	Tc	Ru	Rh	Pd パラジウム	Ag	Cd	In	Sn	Sb	Te	I	Xe
6	Cs	Ba	L ラジウム	Hf	Ta	W	Re	Os	Ir	Pt プラチナ	Au 金	Hg	Tl	Pb	Bi	Po	At	Rn
7	Fr	Ra	A アクチノイド	Rf	Db	Sg	Bh	Hs	Mt	Ds	Rg	Cn	Nh	Fl	Mc	Lv	Ts	Og
			L ランタノイド	La	Ce	Pr	Nd	Pm	Sm	Eu	Gd	Tb	Dy	Ho	Er	Tm	Yb	Lg
			A アクチノイド	Ac	Th	Pa	U	Np	Pu	Am	Cm	Bk	Cf	Es	Fm	Md	No	Lr

元素周期表では、金は第11族、プラチナとパラジウムは同じ第10族。プラチナとパラジウムは性質が似ており、どちらも自動車排ガス浄化装置に用いられる。



金は宝飾品が半分を占め、プラチナ・パラジウムは自動車触媒の割合が最も多い。



どちらも自動車排ガス浄化装置に用いられるが、パラジウムの供給不足が際立っている。